

令和7年度 外国語科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名・副教材名
外国語	論理・表現 I	2	1	BIG DIPPER English Logic and Expression I LESSONBOOK

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

【文法】

- ・1年生では四技能に必要な文法の基礎を学習します。
- ・教科書にある例文を詳しく学習しますので、音読等を通じて出来るだけ授業内で理解して下さい。
- ・授業1回あたりに進むペースは中学校と比べて早いので、予習が必要です。
- ・予習の時にわからなかった問題は必ず授業で質問するようにしましょう。

【TT（ネイティブの先生と日本人先生によるチーム・ティーチング、以下TT）】

- ・NET(Native English Teacher)の先生と日本人教師とでTTを行います。
- ・話す活動や書く活動では、文法の授業で学習した内容を積極的に活用してください。

2 学習の到達目標（「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標）

【第1学年】

領域	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
学習到達目標	・事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。 ・事実と意見などを区別して聞くことができる。 ・リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴に注意しながら聞くことができる。	・説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。 ・事実と意見などを区別して読むことができる。 ・説明や物語などを、聞き手に伝わるように音読することができる。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読むことができる。	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見を交換したりすることができる。 ・与えられた話題について、即興で話すことができる。 ・リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すことができる。	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見を交換したりすることができる。 ・事実と意見などを区別して話すことができる。 ・リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すことができる。	・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔な文章を〔50語※程度〕書くことができる。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くことができる。 ・事実と意見などを区別して書くことができる。 ※語数は任意とする

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	文法事項を深く理解し、英文構造に関する知識を身につけることができる。定期テスト ・発表・観察等により評価する。	文法構造を理解し、伝えたい内容を考えた上で、英語で話したり書いたりしながら適切に情報を伝えることができる。ワークシート・発表・観察等により評価する。	授業で行った活動内容に関心をもち、個人課題やクラス内で実施するグループ活動を通じて、課題の解決に貢献しようとする。ワークシート・発表・観察等により評価する。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（領域）ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	課 “題材名”	領域	評価規準	評価方法
1	L1234 SVOC 日常表現 名詞 肯定・否定・疑問文	話すこと[やりとり]	a: 自分や話し相手の日常の行動について、コミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 「完了・結果」「経験」「状態・動作の継続」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 英語では否定語が日本語と比較して前の方に置かれ、否定の意志を早い段階で表現することを理解することができる。	スピーキングテスト
		話すこと[発表]	a: 好きな科目や人物などについて、コミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 「肯定文・否定文」「疑問文」に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 日本語と英語の基本的な語順の違い、主語の置きかたの違いなどについて正しく理解することができる。	スピーキングテスト
		書くこと	a: 英語で「肯定」「否定」を表す文や、「疑問文」にはどのような表現を用いるのかを理解することができる。 b: 適切な場面において、not を用いて否定の意味を表現し、Is ～？、Do[Does] ～？、Where ～？、Who ～？などを用いて、いろいろな内容を尋ねたりすることができる。 c: 名詞・冠詞の用法を通じ、英語の名詞の数（可算・不可算）、不定・限定の概念を理解することができる。	定期考査 小テスト
		聞くこと	a: ① 日本語で主語が示されない場合 ② 日本語で「～は」「～が」と表現される語句が、英語では主語に相当しない場合 ③ 天候・時間・距離・明暗などを表す場合 には、英語でどのような表現を用いるのかを理解し、コミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: <主語＋動詞＋…> の構造を的確に理解し、日本語の場合は主語を省略して表現される場合がある点をふまえ、適切な主語を補うなど自分で考えて、言いたい内容を理解することができる。 c: 英語の表現を通して、それに対応する日本語の表現の本質的な意味などに対する理解を深めることができる。	定期考査 小テスト
	中間考査			
	L5678 現在・過去 未来 完了 助動詞①	話すこと[やりとり]	a: 自分や話し相手の予定などについて、コミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 「予測・自然の成り行き」「意志」「前から計画していること」「近い未来の予定」の意味に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 助動詞による丁寧さの違いを認識して、話し相手に応じて適切にコミュニケーションを行うことができる。	スピーキングテスト

2		話すこと[発表]	a: 自分や話し相手の日常の行動について、コミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 適切な場面において、can、be able to; may を用いて「可能」「許可」の意味を表現し、may、must、can't[cannot] を用いて「推量」の意味を表現することができる。 c: 日常の行動を述べる表現などを習得することができる。	スピーキングテスト
		書くこと	a: 英語で「完了・結果」「経験」「状態の継続」「動作の継続」の意味を表すにはどのような表現を用いるのかを理解することができる。 b: 適切な場面において、have[had] + 過去分詞を用いて「現在[過去]完了」の意味を表現したり、have[had] + been + ~ ing を用いて「現在[過去]完了進行形」の意味を表現することができる。 c: ある時点までの経験や継続される動作の内容を述べる表現などを習得することができる。	定期考査 小テスト
		読むこと	a: 英語で「可能」「許可」「推量」の意味を表すにはどのような表現を用いるのかを理解することができる。 b: 適切な場面において、can、be able to; may を用いて「可能」「許可」の意味を表現したり、may、must、can't[cannot] を用いて「推量」の意味を表現することができる。 c: 予定・計画される行動の内容を述べる表現などを習得することができる。	定期考査 小テスト
		期末考査		
	L9 10 11 12 助動詞② 受動態 不定詞① 不定詞②	話すこと[やりとり]	a: 身近な人に対して提案や必要などを伝えたり、また、身近な人の過去の行動・状況などを推測したりして、コミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 「助言・義務」「必要・不必要」「禁止」「過去に関する推量・後悔など」に注意して、個々の英文の内容を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 「受け身」を使用するのが適切な場面や状況を理解して、コミュニケーションを図ることができる。	スピーキングテスト
		話すこと[発表]	a: 新年の抱負や将来の予定などについて、不定詞を用いてコミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 「受け身」の意味に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 「義務」「禁止」「過去の推量」の対象となる行動の内容を述べる表現などを習得することができる。	スピーキングテスト
		書くこと	a: 英語で「助言・義務」「必要・不必要」「禁止」「過去に関する推量・後悔など」の意味を表すにはどのような表現を用いるのかを理解することができる。 b: 不定詞の「名詞的用法」「形容詞的用法」「疑問詞 + to-不定詞」の意味に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 「目的」「原因」「判断の根拠」となる行為や、<SVO + (to-)不定詞> で表される行動の内容を述べる表現を習得することができる。	定期考査 小テスト
		聞くこと	a: 英語で「受け身」の意味を表すにはどのような表現を用いるのかを理解することができる。 b: to-不定詞の副詞的用法や原形不定詞の用法に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 形式主語構文により主語が過大になるのを避ける点や、形容詞的用法により被修飾語を後ろから修飾する点など、英文の特徴を理解して、表現することができる。	定期考査 小テスト
	中間考査			
	L13 14 15 16 不定詞③ 不定詞④ 分詞 比較①	話すこと[やりとり]	a: 依頼や承諾などをする場面で不定詞を用いてコミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: to-不定詞の副詞的用法や原形不定詞の用法に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 趣味・謝罪・依頼を述べる表現などを習得することができる。	スピーキングテスト
		話すこと[発表]	a: 自分が計画していることや余暇の過ごし方などについて、不定詞・動名詞を用いてコミュニケーションを図る技能を身につけている。	スピーキングテスト

		書くこと	b: 適切な場面において、動名詞（～ ing）を用いて「～すること」を、動名詞の意味上の主語を用いて「…が～すること」を、not を動名詞の直前に置いて「～しないこと」を、それぞれ英語で表現することができる。 c: 「目的」「原因」「判断の根拠」となる行為や、<SVO + (to-)不定詞> で表される行動の内容を述べる表現を習得することができる。	定期考査 小テスト
			a: 幼いころの思い出や、写真に収められた休暇の情景などについて、分詞を用いてコミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 適切な場面において、現在分詞、過去分詞を用いて、それぞれ「～している…」 「～された…」 と名詞を説明する表現することができる。 c: 分詞の後置修飾や、<SVC [=分詞]>、 <SVOC [=分詞]> で表現される内容の語彙などを習得することができる。	
		聞くこと	a: 数量の比較や自分の嗜好・価値観などの話題について、比較表現を用いてコミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 同等比較や比較級を用いた比較表現に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 同等比較や比較級を用いての比較でよく用いられる語彙などを習得することができる。	定期考査 小テスト
		期末考査		
3	L17 18 19 20 比較② 関係詞① 関係詞② 仮定法	話すこと[やりとり]	a: 自分が考える願望や仮定の状況について、仮定法を用いてコミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 関係代名詞の「主格」、「目的格」に注意して個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 知り合いや身の回りの物品を説明する場合の語彙などを習得することができる。	スピーキング テスト
		話すこと[発表]	a: 学校での活動や図表の内容に関して、比較表現を用いてコミュニケーションを図る技能を身につけている。 b: 最上級を使った表現、原級を使った表現に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 最上級、倍数表現、<as ～ as one can> でよく用いられる語彙などを習得することができる。	スピーキング テスト
		書くこと	a: 関係代名詞を用いて名詞を説明する表現を理解することができる。 b: 関係代名詞 what、関係副詞 where、when、why、how に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 関係代名詞 what や関係副詞を用いての表現で、よく用いられる語句などを習得することができる。	定期考査 小テスト
		読むこと	a: 英語で「現在や過去の仮定」の話をする場合や、「現在や過去と異なる願望」を表すにはどのような表現を用いるのかを理解することができる。 b: 仮定法過去、仮定法過去完了、願望を表す用法に注意して、個々の英文の意味を理解し、適切な思考・判断をもってそれに応答することができる。 c: 仮定法を用いる状況に付随する状況を述べる表現などを習得することができる。	定期考査 小テスト
	学年末考査			

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度